

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 基礎的・基本的な知識・技能の定着に、個人差がみられる。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 算数では、TTを効果的に取り入れて指導を行ったり、習熟度別学習を積極的に取り入れて少人数で学習を行ったり、個別最適な学びが行えるような環境を整える。【単元に1回以上】 また、「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組めるようにする。【週に2度の実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自分の考えをまとめたり、進んで発信したりすることに意欲的でない場面がみられる。 【指導上の課題】 子どもたちが安心して、主体的に活動できる環境を整えることに不十分である。	⇒ 協働的な活動を通して、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実施していく。【学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が80%以上】 児童一人ひとりが、自分の頑張りや素直に認め、他者の頑張りを見つけて認め合える授業を展開していく。【全教員による研究授業の実施】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	令和6年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「知識・技能」において、全国平均と比較し、正答率は国語と算数ともに上回った。特に国語の「正しい漢字の使い方」についてや、算数の計算問題、数量の関係をついて式に表す問題などでは、全国平均の正答率を大きく上回った。個々に応じた必要な基礎・基本の反復学習を進めてきた成果であるといえる。一方、算数における「速さの意味」について理解しているかの問題の正答率が、他の問題に比べて低かった。日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させられるような授業展開を行っていくよう努めていく。また、より一層、朝のパワーアップタイムを活用したり習熟度別学習を行ったりしながら、児童一人ひとりに合った問題を反復し、習熟していくような活動を継続していく。	
思考・判断・表現	令和6年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「思考・判断・表現」において、全国平均と比較し、正答率は国語と算数とどちらでも上回った。特に、昨年度の課題であった「読むこと」の領域に関する正答率が高く、読書に力を入れて文章を読む活動を増やすとともに、文章から要点を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする活動を重点的に進めてきた成果であるといえる。「書くこと」の領域は他の問題に比べて低めなので、文章から要点を読み取ったり、自分の考えを限られた文字数でまとめる活動や、体積を求める問題が他の問題よりも正答率が低かった。「知識・技能」の観点の時と同じように、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させられるような授業展開を行っていくよう努めていく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	分析共有(児童生徒の実態把握)	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	算数を中心に複数の教職員で児童の指導・支援にあたることのできた。また、週に複数回、「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことのできた。引き続き個別最適な学びが行えるような環境を整えていきたい。	個別のデータを教職員が把握するとともに、児童が確認する時間を設定するなど、自身の学習状況を踏まえ見直しをもって学ぶことができるようにする。【単元に複数回実施】
思考・判断・表現	B	どの教職員も、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実施するよう努めた。全教員による研究授業は、2学期に実施する予定である。自尊感情を一層高めていくとともに、児童一人ひとりのよさを生かした個別最適な授業を行っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)